

学校名	武雄市立武雄小学校
-----	-----------

達成度 (評価)	A 十分達成できている B おおむね達成できている C やや不十分である D 不十分である
----------	--

1 前年度 評価結果の概要	・学力向上…個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りつ、児童一人一人の学力向上につながる授業改善を全職員で継続して行う。 ・望ましい生活習慣…家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。スマートフォンをはじめとする情報機器との付き合い方に関するお便りや講演会等を通じて、児童や保護者へ啓発を図る。 ・心の教育…「ほめるからはじめる、はじめる」を常に意識し、児童が将来の夢や目標をもち、学校や家庭で目標をもって生活できるような活動を仕組んでいく。 ・業務改善・働き方改革…それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を推進し、定時退勤日はじめ、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
---------------	---

2 学校教育目標	夢と志をもち、意欲的に取り組み、自己肯定感に満ちた児童の育成 ～学校はみんなで創る～
----------	--

3 本年度の重点目標	1 誰一人取り残さない 安心安全で 温かい環境を創る。○一人一人を大切に、規律の中に温かさのある学級を創る。 2 自分の夢や目標をもち、すすんで挑戦し続ける力を創る。○自ら考え、選び、決め、行動する力の定着を図る。 3 地域のよさを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育む。○地域と連携し、子どもが「地域の『ひと』『もの』『こと』のよさ」に気づき、学び、発信する学習体験活動を創る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価			
(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価
							意見や提案
●学力の向上	●「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」(リーディングDXスクール事業)を実現するための授業改善と授業力の向上。	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善をした教師90%以上。 ○ICT機器の「効果的な活用の仕方」を学び合う研修を実施し、授業改善に行かせた教師85%以上。	単元でどんな力を身に付けるのか、学習のゴールを明確にする。 ・単元や授業の可視化、評価の共有などを通して、児童にとって個別最適で協働的に学ぶ環境を作る。 ・校内研究でも学び合う研修を実施し、児童が生きて働く学力を高める授業を追求する。	A	・教員22名中、21名が年に2回のメンタリング実施を行うことができた。「授業力が向上できたと思うか」というアンケートには、肯定的回答が95%だった。 ・個別最適で協働的に学ぶ授業づくりに務めることができたかという問いに肯定的な回答は89.5%と、授業改善に対する高い意識を維持することができた。 ・後期でも、ICT機器の「効果的な活用の仕方」の研修を授業改善に生かさせたと回答した教師90%と目標を達成できた。	A	・児童の学力向上を図るため、日々授業の改善に尽くしていることに対して敬意を表する。 ・先生方の授業改善に向けた熱心な取り組みとやりがいが伺えます。 ・日々熱心なご指導に感謝します。健全なる精神は健全なる身体に宿るといいます。益々のご指導に期待とお願いをいたします。
	○基礎学力の定着。	業者テストの平均80点以上。	・年間を通じて学力向上タイムを設け、全校で国語と算数の基礎学力を定着を図る。 ・学年に応じた家庭学習への取り組みを徹底する。	A	・年間を通じた業者テストは国語83.9、算数、82.3と、前回よりも上昇することができ、年間を通して、目標を達成することができた。 ・朝のチャレンジタイムでは、間違いの多い問題の解説や、基礎問題の取り組みを行った。 ・自主学習ノートの取り組みについては、学習内容、量を充実させることができ、学習への意識向上につなげることができた。「自分に合った学習方法を工夫して家庭学習をしている」という問いに肯定的に答える児童が70%から76%に上昇した。	A	・一人一人の児童に合った学習をして学力の向上を今後とも実施してほしい。 ・小学校教育の不易といえる基礎学力の向上において、確かな成果が感じられます。 ・子どもたちを同じレベルまで押し上げるのは、たいへんなことと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業等をを通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90%以上。	・校内支援委員会や児童連絡会で情報を共有し児童理解の力量を高め合い児童の支援に繋げる。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	A	・学校行事や日頃の生活、道徳の授業等をを通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師は、94.7%であり、目標値を上回ることができた。 ・道徳の授業で使える掲示物等を増やし、充実させることで、次年度以降も共有できるようにしていきたい。	A	・児童と地域の交流を増やして豊かな心が育つ学習をしてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校で安心して楽しく過ごしているという保護者90%以上。	・週に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案に早期対応する。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	A	・学校で安心して楽しく過ごしているという保護者90%以上を達成することができた。(93.4%)週に1回の「気になる子」報告会や心のアンケート(年に3回)実施するなど早期対応・指導してきたことがこの結果につながった。 ・人権・同和教育の研修は1回と連絡会等で情報の共有をするなどをすることで更なる人権教育について研修を深めることにつながった。	A	・学校は友達と楽しく過ごせる居場所として、今後とも児童の変化を見逃さないよう対応してほしい。 ・気になる子への声掛け・配慮をよろしく願います。 ・安心して過ごせるいじめのない学校を目指してほしい。
●ふるさと「武雄」の良さを学び、感謝や思いやりの心の醸成。	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上。	・特別活動や総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の学習の場をつくる。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、学校生活の中でめあてをもったり、自己を振り返ったりするとともに、夢や目標を考える時間を設け、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした児童は、97.9%と中間評価よりも大幅に増加した。引き続き児童の頑張りを認め、褒めて伸ばす指導を心がけていきたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は89.8%で目標値を上回ることができた。今後各キャリアパスポートの活用や各学期の学習や生活のめあてを立てさせ、振り返りを充実させることで、児童の主体的に学びに向かう力ややり抜く力を向上させた。	A	・外部講師をたくさん招いているいろいろな夢をもつための教育活動をしてほしい。 ・子ども達一人一人の良さに着目した指導を心掛けてもらっていること、ありがたく思います。 ・子どもたちも先生から褒められたら嬉しいと思う。たくさんほめてほしい。 ・子どもたち一人一人が先生方に認められていることが自信につながると思います。
	○ふるさと「武雄」の良さを学び、感謝や思いやりの心の醸成。	○ふるさと「武雄」の良さを学ぶとともに地域をはじめとする周囲への感謝や思いやりをもてたと回答した児童80%以上。	・地域人材や「もの」を意図的・計画的に活用し、郷土を愛する児童を育てる。	A	・児童アンケートで「武雄はよいところだと思う」が97.1%、「地域のの人に感謝や思いやりを感じている」が97.4%となり、目標を達成することができた。地域の人材を意図的・計画的に活用したことで、ふるさと「武雄」の良さや感謝を感じるにつながった。	A	・今後とも地域とのつながりを続けてほしい。 ・学年に応じて武雄の良さを目を向けさせる指導を今後ともお願いしたい。
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができていない児童を85%以上。 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上。	①「生活リズムチェックシート」の活用を通して、家庭で生活習慣の見直しを図る機会をつくる。 ①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	B	・「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができていない児童は84.2%でわずかに届かなかった。生活リズムチェックシートの内容を工夫したり、家庭に呼び掛けを行う頻度を再考したりして、引き続き働きかけをしたい。また、保健の授業や学級活動などを活用し、児童が基本的な生活習慣を身に付ける重要性を感じられるようにする。 ・「健康に良い食事をしている」児童は89.7%でわずかに届かなかった。今後学校だよりや学年通信等での呼び掛けを続けたい。養護教諭や栄養教諭と協力し食育等の授業を行う時期をそろえたり、給食の時間に声掛けをしてもう頻度を増やししたりして、健康によい食事の重要性について、考えられるようにしたい。	B	・基本的な生活習慣は家庭にあると思います。家庭への呼びかけを継続して行ってほしいと思います。 ・家庭との連携が大切だと思う。学校だよりはとても効果的だと思う。
	○日常の給食指導や生産・体験学習等を通して、「食」の大切さに気づき、健康な体作りを実践しようとする態度の育成。	○「食」の大切さに気づき、健康な体作りをしようとする児童90%。	・給食指導や食の授業等を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見つめ直す機会をつくる。(「食は命」の教育)	A	・健康のために食事が大切だと回答した児童の割合は98.7%であった。上記の取り組みと関連させ、食に対する見方や考え方が生活に活かせるよう継続して啓発する。	A	・「命を守るために食事が大切」という取り組みを継続してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○外で体を動かして遊んだ児童85% ○体力向上に関する取り組みをした教師85%以上	・健康づくりのために、外で体を動かして遊ぶことを奨励し、楽しい体力づくりを図る。 ・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	A	・「外で元気に運動している」の質問に対して肯定的な回答をしている児童の割合は92.2%だった。外遊びの推奨や委員会活動を中心としたスポーツイベントなどを企画することができたため、今後も楽しく体を動かす機会を確保させたい。 ・体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師については、87.5%であった。体育主任の情報発信や校内研究のメンタリングを活用し、職員に啓発することができた。来年度は、全学年の年間計画の調整・工夫を行い、系統的な指導が行えるようにする。	A	・児童の身体能力等の向上のために活動を実施してほしい。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85%以上。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日に定期退勤日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。 ・年次休暇の取得を適宜呼びかける。	A	・1月から定時退勤日を校長の指示のもと、個別最適な日に設定することとなり、それぞれのタイミングで定時退勤を行っている。 ・個人差はあるが、年間の時間外勤務時間の平均は、約33時間であった。中間評価より平均2時間短縮できた。平均40時間以内の時間外が達成できた職員は、90.3%だった。 ・年次休暇の14日以上の取得率は、3月までの見込みを入れると約80%の職員が達成する見込みである。	A	・体を休めてさらに児童に向き合ってもらいたいと思う。 ・時間外勤務時間がもう少し短縮できたらいいと思う。 ・時間外勤務時間について平均40時間以内の時間外の達成が100%になることを願う。 ・一層の改善を期待します。
●特別支援教育の充実	○やりがいをもって安心して元気に働ける職場環境の整備。	○やりがいをもって元気に働けたと回答した教師80%	・ヒアリング等を通して、具体的なキャリアプランを持ち、業務改善や人材育成を図っていく。 ・勤務時間内で業務が対応できるように業務改善、見直しを行う。 ・電子閲覧板等の機能を有効に活用して会議の時間・回数の前年度比1割削減を図る。	A	・「やりがいをもって働けた」と回答した教師は、89.4%で中間評価よりも肯定的な回答が増加した。今後やりがいをもって職務に取り組むことができるよう、業務改善、見直しを継続していきたい。 ・電子閲覧やフォームでのアンケート等の活用で、時間・回数共に昨年度よりも1割程度削減できた。	A	・児童の将来のために取り組んでほしい。 ・1割の職員が業務の中にやりがいを十分に感じていないという結果には直視する必要があると思う。
	○保護者や専門機関との連携し、個に応じた指導を行う。	○児童との関係を大切に相談活動を充実させ、昨年より個に応じた指導ができたと回答した教師80%以上。	・計画的、定期的に会議(支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	A	・児童の実態や状況に応じて保護者や関係機関との連携を図ることができた。 ・「児童との関係を大切に相談活動を充実させ、昨年より個に応じた指導ができた」と回答した教師は94.8%で目標を達成することができた。関係機関と連携を密に図ってできたことが、児童理解の促進や個に応じた指導につながった。	A	・今後とも保護者とのつながりを大切に児童の指導をしてほしい。
(2)本年度重点的に取り組む職員評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価
							意見や提案
○地域・育友会と連携し共通理解を図りながら、教育効果を高める活動を精選し実施する。	○地域・育友会と連携し共通理解を図りながら、教育効果を高める活動を精選し実施する。	○地域の力を貸していただき、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャーとしての活用について肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上	・地域連携事業で実施してきた体験活動を、現在の学校教育課程に合った形で見直し、「地域のひと・もの・こと」と出会う学習体験の場になるように働きかける。 ・連携の要である学校運営協議会と協議しながら、「健康」「食育」「環境」教育に繋がる事業へと精選し、教育活動に効果的な活動へと見直す。	A	・朝の読み聞かせについては、年間を通して、どのクラスにも入ってもらうことができた。 ・委員会活動の花植えでは、地域の老人会の方にサポートにきてもらい、力を合わせて取り組んだことで、学校の環境整備を行うとともに、地域への愛着や誇りにつなげることができた。 ・総合的な学習の時間に七輪でのもち焼き体験を行った際も、老人会の方をゲストティーチャーとして招いて教えてもらい、昔の道具への理解を深めることができた。 ・鷹匠の方もゲストティーチャーとして招き、生き物に直に触れさせていただくこともでき、児童の好奇心を掻き立てることにつながった。 ・地域人材を活用することで、教育活動をさらに効果的なものにする事ができた。	A	・今後とも地域の力を活かした取り組みをしてほしい。 ・地域は喜んで子どもたちのサポートを行っている。地域の方の顔を覚えること登下校も安心だと思ふ。 ・地域人材を活用することは、地域の方にとってもいい効果があると思う。これからは続けてほしい。 ・質の高い効果的に教育活動に向けてさらなる連携を期待します。